大阪インターナショナルチャーチ　　アダム・キング牧師

我が身の望みは

11/26/2014

おはようございます。先週から、「賛美歌」と題した新しいシリーズの学びを始めました。先週のメッセージは、「輝く日を仰ぐとき」からインスピレーションを得たものでした。私たちは、神の偉大さを３つの側面から学びました。偉大な創造、偉大な知識、そして大いなる愛と恵みです。今日も、このシリーズの学びを続けます。

砂浜でお城を作ったことがありますか。バージニア州にあるバージニアビーチでは毎年ネプチューン・フェスティバルが開催されます。今年で 41 年目となるこのイベントでは、サンドアートのコンテストがあります。そこで出品された砂の城の写真がありますので、お見せしましょう。けれども、私が砂浜で砂の城を作ろうとすると、あまりうまくいきません。海辺で砂の城を作ると、徐々に潮が満ちていきます。するとどうなるでしょう。たいていの人は、自分の作った城の周りに堀を作ります。水の浸入で城が壊れるのをどうにか防ごうとその堀をどんどん大きくしても、結局は城ごと波にさらわれてしまいます。水辺から遠いところや岩の上に城を作れば話は別ですが、そうでなければいつかは海にやられてしまいます。

エドワード・モートは、イギリスでパブを経営する両親のもとに生まれました。クリスチャン家庭で育ってはいませんでしたが、神はエドワードにご自身を現わしてくださり、エドワードはクリスチャンになりました。1834 年、エドワード・モートは家具職人として働いていました。ある日の出勤中、賛美の歌詞が思い浮かびました。職場に着くまでにコーラス部分を書き終え、その日の仕事を終えるまでに 4 番までの歌詞が完成していたといいます。これが讃美歌 280 番「我が身の望みは」です。彼は後に牧師となり、その在職中にこの賛美歌が公表されたといわれます。モートは病床の友人の妻を見舞いました。モートが訪ねた日、友人の妻は歌が歌いたいと言っていたのですが、賛美歌の本がなかったため、モートの自作の賛美を歌うことになりました。このとき、女性はずいぶんこの賛美を気に入り、歌詞のプリントを求めたそうです。この女性の感動ぶりを見て、モートは自作の賛美を公表しようと決心しました。

今日は、堅い岩の上に私たちの人生を築くことについてお話します。私たちが人生を築くべき堅い岩とは誰のことでしょう。旧約聖書にはこのようにあります。申命記 24：3「主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。」詩篇 18：2「【主】はわが巌、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。」詩篇「19：14「私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、【主】よ。」これらのみことばはすべて神について語ります。イスラエルの岩は神であると言います。神はダビデの岩であり、私たちにも岩の上に人生を築くことを神は望んでおられます。

イエスは、堅い岩の上に人生を築くことについてこのようなたとえ話をなさいました。マタイ 7：24-27 です。「7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。 7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。 7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。 7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

イエスが語られたこのみことばは、有名なイエスの説教「山上の垂訓」の最後に出てきます。イエスは、正しい生き方について人々に教え、その最後に群衆に向かってこの話をなさいました。イエスのことばを聞いてそれを実行する人は賢い、と群衆におっしゃいました。イエスのおっしゃったことを実行するなら、岩の上にしっかりした土台を築くことになります。キリスト教とは、イエスのことばを聞いて信じるだけではありません。イエスのことばを聞くだけでなく、行うことも求められます。私たちはイエスのことばを聞いて信じるためだけに召されたのではなく、人生のすべてをかけてイエスについていかなければなりません。イエスを信じるというクリスチャンとして、私たちはイエスのおっしゃったことすべてに従う必要があります。従いたい部分を選り好みはできません。イエスの教えを実行する必要があります。マタイ 28：19-20 は、大宣教命令と呼ばれます。「 28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、 28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」 これは、イエスが地上を離れる前に残された最後のことばです。その中で、イエスは人々を弟子としなさいと命じておられます。人々を弟子とすることには、イエスの教えを伝えることも含まれます。人を弟子とするというのは、一度きりの出来事ではありません。イエスを救い主と告白するよう促すだけで終わりではないのです。イエスの教えを一度にすべて伝え切ることはできません。人を弟子とするというのは、一生かかってすることです。そのひとつの方法が、岩の上に信仰を置くよう人々に教えることです。そうすれば、疑問や悩みごとがあるときも、信仰を強く持ち続けることができ、信仰の家が倒れることはありません。

この中には、イエスという岩の上にどうやって人生を築けばよいのかわからないという人もおられるでしょう。私は工作が得意ではありません。イケアで売っているような簡単な本棚の組み立てにも苦戦します。うちの家には私よりそういうことが得意な人がいるので、その人に任せることにしています。イケアの組み立て家具には、組み立て方法を説明した図などもついてきますが、私にはそれ自体がよく理解できません。イエスも、岩の上に人生を築く方法をこの個所で説明してくださいます。その方法はシンプルです。ステップはふたつしかありません。まず、イエスのみことばを生活に取り入れることです。イエスは 24 節で、「わたしのこれらのことばを聞いて」とおっしゃいます。

次に、イエスのみことばを日常生活に応用することです。24 節には、「それを行う」とも書いてあります。イエスのことばを実行するということです。では、イエスのことばを生活に取り入れることについて詳しく考えていきましょう。「イエス入力」と覚えることにしましょう。イエスのみことばを生活に取り入れるには、イエスのことばを聞かなければなりません。イエスのことばを取り入れていないなら、堅い岩の土台の上に信仰を築くことはできません。イエスのことばを聞くというのは、受け身ではありません。私たちが能動的かつ積極的に行う行為です。イエスのみことばを生活に取り入れようと意識して努める必要があります。他のものにも言えることですが、努力なしに良いものを得ることはできません。

イエスのことばを積極的に生活に取り入れる方法をいくつか挙げてみましょう。 一番基本的な方法は神のみことばを読むことです。イエスがおっしゃったことを知りたいなら、聖書を開いて読んでください。人生に取り入れるべき真理はそこにあります。聖書を読むことについては、後ほどもう少しお話します。もうひとつの方法は、教会に行くことです。教会に行けば、神のみことばについての教えが聞けます。聞いたことを書き留めたり、説教者をとおして神のみことばが語られるのに耳を傾けたりできます。ただぼんやり座っているだけでなく、しっかりとメッセージを聞いてください。また、スモールグループに参加することもできます。スモールグループに出席する

だけでなく、神やイエスのことをもっと知りたいという意欲をもって参加してください。いっしょに学んでいる聖書個所について自分の意見や考えを発言しましょう。他にも、信徒たちとの交わりがあります。初代教会は、人々が家に集まって食事をしたりイエスについて語り合ったりしました。イエスが教えてくださったことをお互いに分かち合うのです。皆さんにもぜひこのような交わりをお勧めします。こういったことをするには、努力が要ります。けれども、努力をするだけの価値があります。神のみことばとイエスのことばを人生に取り入れることは不可欠です。次のステップの土台となるからです。家を建てる時には必ず基礎が敷かれます。壁や屋根から建て始めて後から土台を作ることはできません。そんなことをすれば、家は倒れてしまいます。弟子となる次のステップに進む前に、しっかりした土台があることを確認しなければなりません。

次のステップは、イエスのみことばを日常生活に応用すること「イエス出力」です。皆さんにお尋ねします。聖書の目的は何ですか。聖書の目的は、旧約時代に神がなさった不思議なことを私たちに知らせることでしょうか。初代教会がどのように機能したかを伝えるためでしょうか。将来のことを知らせるためでしょうか。今挙げたことはどれも大切で、私たちは知るべきですが、聖書の目的とは言えません。聖書の目的は情報伝達ではなく、変化を生むことです。

私たちが聖書で読んだことを実行すると、変化が起こります。教会で教えられたことを実行すると、変化が起こります。聖書には、隣人を愛しなさいとあります。それはとても良いお話ですが、私たちが実際に隣人を愛することを行動に起こして初めてそれは実現します。聖書には、夫はキリストが教会を愛したように妻を愛しなさいとあります。これもまた良いお話で、幸せな結婚生活の秘訣だと思いますが、キリストが教会を愛したように妻を愛することを夫たちが実践して初めて実現します。聖書には、思い煩わないでイエスを信じなさいともあります。これも良いお話です。知っていて損はありませんが、実際にあれこれ思い悩むのをやめて、イエスがすべての状況を支配してくださると信頼して初めて実現します。みことばを知るだけでは不十分なのです。

聖書の教えを知っている人はたくさんいます。そういう人は、聖書が何と言っているかいくらでも語れるでしょう。聖書のみことばをたくさん暗記したり、聖書の知識が豊富だったりします。しかし、それを実践しない人がいます。これまで得たたくさんの聖書知識を行動に移さないのです。私が大学時代、教授たちはそのような危険を避けるようにと注意してくれました。私たちは毎日聖書を学んでいたので、聖書の知識はたくさんあってもそれを実行しない人にすぐになってしまうと教授たちは注意を促してくれたのです。私もそうなってしまったことが今までにあります。そういう状態で放っておくと、どんどんそこから抜けられなくなります。私たちは聞いたこと学んだことを実行しなければなりません。神のみことばを聞いてそれをしないのは、自分のためになりません。

ヤコブ 1：22-25 にはこうあります。「1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。 1:23 みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。 1:24 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいます。 1:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。」

ヤコブは、ただ聞く人になって自分を欺いてはいけないと警告します。そんな人は、鏡で自分の顔を見てもその後すぐにどんな顔だったかを忘れる人のようだと言います。私たちは聞いたことを実行に移さなければならないと、ヤコブは語ります。私は、バスケットボールチームのコーチをしています。練習の時には、プレイの方法や上手になるコツを教えます。選手たちがバスケットコートでのスキルを磨けるよういろいろ教えようと努めます。けれども、選手たちが私の教えたこ

とをしなければ、上達しません。同じことが私たちにも言えます。イエスが語られることを私たちが実行しなければ、イエスの弟子として開花しません。イエスのために生きる可能性を最大限に引き出すことができなくなります。

神のみことばを私たちの生活に取り入れなければならないと私は言いました。ひとつの方法は聖書を読むことです。私たちクリスチャンは、神のみことばを読んで学ぶ必要があると私は強く信じています。同時に、正しくみことばを読む必要があるとも思っています。聖書を読んで勝手な解釈をしないよう気をつけなければなりません。テモテ第二 2：15 は、神のみことばをまっすぐ正しく解き明かさなければならないと語ります。私たちも、神のみことばをまっすぐ正しく理解する者となりたいものです。聖書を読むときに考えていただきたい 4 つのことをここでご紹介します。

1. そのみことばは、もともとの読み手にとってどういう意味だったか。
   聖書は 2014 年に生きる私たちに宛てて書かれたものではありません。私たちが住んでいるのとはずいぶん違う世界に生きる大昔の人々に宛てて書かれたものです。聖書を読むときは、そのみことばが書かれた歴史的背景も考慮しましょう。読み手は誰なのかに目を向け、「当時のその人たちにとってどういう意味だったのだろう」と考えてみましょう。聖書を読むときは、そこに書いてあるすべてのことを注意深く考えましょう。歴史的背景を踏まえ、21 世紀の目ではなく、当時そのみことばを初めて受け取った人たちの立場に立って読んでみましょう。もともとの読み手にとってどういう意味だったかを書き出すのもお勧めします。書き出す際は、過去形の文を使いましょう。「神は・・・とイスラエルの民に命じられた、イエスは弟子たちに・・・と言われた、パウロは教会を・・・と励ました」などといった具合です。またできるだけ具体的にその内容を書き出しましょう。
2. もともとの読み手と私たちの違いは何か。
   このステップでは、もともとの読み手と私たちの置かれた状況を比べて、その大きな違いに目を向けます。時代や言語、文化などの違いを常に頭に置いておきましょう。これらの違いは、もともとの読み手が理解することと私たちが理解することとの間にギャップを生じさせます。ですから、もともとの意味をそのまま私たちに当てはめることはできません。読んでいる個所によってギャップの程度は違いますが、ギャップが存在することをいつも覚えていましょう。このステップでは、読んでいる個所特有の状況にも注目してください。例えば、モーセがイスラエルの民をエジプトから導き出したことや、ダビデが巨人ゴリアテを殺したことなどです。
3. そのみことばに見られる神学的原則は何か。
   これはなかなか難しいステップですが、神が私たちに教えようとなさることを見出すととてもやりがいを感じます。このステップでは、ステップ 1 でわかった内容から、神学的原則を読み取ります。神学的原則を作りだそうとしてはいけません。すでにある原則を読みとるのです。もともとの読み手と私たちとの間に共通点はないか考えてください。私たちはモーセのように国民全体を自由へと導いていなくても、教会や職場で数人の人をリードする立場かもしれません。モーセは民を導くにあたり、神のみこころをなすことを求めていました。私たちも人をリードするときは同じです。神学的原則を見つけようとするときは、聖書全体の教えに沿っていることが大前提であることを覚えていましょう。その個所に何らかの原則を見つけたと思っても、他の聖書個所と矛盾するなら、考え直す必要があるでしょう。ここでも、見つけた原則を書き出しましょう。この部分は、現在形を使いましょう。

4. 現代のクリスチャンは、そのみことばに見られる神学的原則をどのように日常生活に適用させるべきか。
ここが私たちにとって一番重要となる部分です。ここで、聖書の語ることを現代の私たちの生活に当てはめるのです。聖書を神学的原則の羅列のままにしておいてはいけません。私たちが直面する現実の状況にどうやってみことばを当てはめるのか、という問いに真剣に向き合う必要があります。それぞれのみことばにはたいていひとつの神学的原則が込められていますが、それを適用できる方法はいろいろあります。あるみことばが日本にいる私たちにとってと、メキシコにいるクリスチャンにとってでは、具体的な適用法は違うでしょう。一人ひとり人生で置かれた場所は違いますが、みことばを読むとき、それぞれの人生にその内容を当てはめることができます。同じ聖書個所を読んで、生き方も状況も違ったとしても、それぞれの人生に当てはめることができるのです。

神のみことばを正しく聞く方法がわかりましたから、みことばを行う者になるための計画を立てなければなりません。私の大学の教授はこのように言っていました。「成果の上がる計画を立てたいなら、達成可能で、かつ達成の度合いを測れる計画を立てるべきだ。」

まず、達成可能でしょうか。現実的で堅実な計画でしょうか。つまり、実際に自分ができる内容かということです。たとえば、来年は神をもっとよく知ろうと思ったとします。どんな方法でそうしますか。それを実現させるためにどんなことをしますか。神をもっとよく知りたいと口で言うだけではいけません。神をよく知るために、実際に何か行動を起こす必要があります。そのひとつは、聖書を読むことです。その際、達成できる目標を設定するように気をつけましょう。一か月で聖書一冊ぜんぶ読むといった計画はしないほうがよいでしょう。むしろ、毎月福音書をひとつ読むといった計画がお勧めです。最初の月にはマタイ、次にマルコ、そしてルカ、最後にヨハネといった具合です。一か月で福音書をひとつ読むならできそうですし、神をもっと知るにはよい方法です。

次に、達成の度合いを測れるでしょうか。つまり、自分がどれくらい進歩したかがわかるかどうかです。一か月で福音書をひとつ読むという目標は、達成度合いを測れます。その書を読み進めながら、どこまで進んだか確認できます。一か月で福音書をひとつ読むという目標を達成できたかどうかも確認できます。目標を達成するのが難しいようなら、目標の内容を調整するのもよいかもしれません。やる気を失わないためです。とにかく目標達成を目指しましょう。

目標を持つことも大切ですが、それ以上に大切なのはそれを実行することです。気持ちだけでは不十分です。その気持ちを行動に移す必要があります。聖書を読んで神のことをもっと知ろうと思うなら、聖書を開いて読み始めなければなりません。

自他共に認めるイエスの弟子になりたいですか。人があなたの生き方を見て、「あの人はイエスに従って生きている。私もあんなふうになりたい」と言ってもらえるようになりたいですか。もしそうなら、イエスのことばを生活に取り入れ、そのみことばを実行しましょう。